

一つひとつの経験が 形を変えていまに生きている

たきぐち

公益財団法人日本盲導犬協会
盲導犬訓練士・盲導犬歩行指導員

瀧口 かな 氏（高校64期）

2012年 立川高校卒業
2016年 慶應義塾大学文学部卒業
（公財）日本盲導犬協会 盲導犬訓練士研修生
2017年 （公財）日本盲導犬協会 入職
現在 盲導犬訓練士、盲導犬歩行指導員



■高校時代

立高への進学を志したきっかけでもある吹奏楽部に所属し、副部長を務めました。中学時代とは比べものにならない大所帯の部活で、「ああでもない、こうでもない」と演奏や運営について何度も話し合いました。互いの考えを聞き、折り合いをつけ、笑いあり涙ありで本番に向けて練習した時間は、かけがえのない経験になっています。演奏技術はなかなか伸びず、悔しい思いもたくさんしましたが、卒業後も交流がつづく個性的な仲間に出会えたことは、何よりの宝物です。

■卒業後

大学ではゼミでのグループ研究や、アルバイト、国内外の旅行などさまざまな経験を楽しみました。一方で、多様な強みを持つ人たちに出会い、気後れや羨ましさを感じることもありました。卒業を控えた3月に、幼いころから憧れていた現職の募集を偶然見つけました。内定先への入社を目前に控えていたため、迷いもありましたが、他人を羨ましく思うばかりでなく、後悔しない選択をしたいと思い応募し、現在に至ります。

盲導犬訓練士としては、犬それぞれの性格や特性を見極め、最適な計画を立てて訓練します。また、盲導犬歩行指導員として、盲導犬ユーザーそれぞれに異なる暮らし方や外出の仕方に合わせた歩行指導をしています。言葉と話さない犬と、見えない・見えにくい世界を生きるユーザーをつなぐことは難しいですが、自分の行動次第で、相手の変化を肌で感じられることにこの仕事の面白さを感じています。日本では名前は知られていても、実際に見かける機会は少ない職業かもしれません。しかし、正解がない世界で、ひたすら観察し、考え、実行し、仮説を検証していくプロセスは、学問やほかの仕事に通じる部分も多くあります。



訓練の様子



街中での歩行訓練の様子

■立高生に向けて

興味がわくことや仲間との時間を大切に、目の前のことへ真剣に向き合ってみてください。たくさん笑い、悩み、ぶつかり合いながら過ごす時間は、形を変えて必ず将来の糧になります。私自身、仲間と向き合った部活での経験は、いまの仕事にも通じていると感じます。そして、心が動く機会が訪れたら、その波に乗ってみてください。一つひとつの選択を重ねていくと、自分でも驚くような未来にたどり着けるはずですよ。いま将来像が思い描けなくても、きっと大丈夫です。高校時代の私も、いまの自分を想像していませんでした。ぜひ、立川高校での三年間を大切にすごしてください。立高生一人ひとりの活躍を願っています。